

為獲せ放あふちひしつるいふ後の方た蜂はちの巣ありて多くの蜂の声こゑ續つづ極たぎの採とりませ
えいしいのい出い 象衣ふ ○九月十三日東叡山福禰殿并諸堂所修復新始

○十月廿七日書家伊波益道えきどう卒 名子形 林若菴 坂本甚五郎不詳 ○十二月十日夜三更あけのころ

新座那しんざな東明とうめいと吹上親世おきなよ寺本堂焼亡 本号大中不詳 ○十二月廿三日儒師

伊东渤海いとうぼく卒 名晃 浅草 万庵ふふ華

安永六年丁酉

二月廿一日曉青山御子大工町焼 ○浅草報恩寺親書上人持物の什宝を

焼せむ ○三月廿日より六月朔日まで浅草寺親世寺并境内林仏熱閑

焼あり閑基いさまより千百五十年ふりふと云 旅人寺町百菴の菩提ふり浅草妙善院の境内ふり是時阿先生住むゆを坊ひ焼石

閑焼ありと拜をけおせ 中谷と云今の中田といふ

石枕あり思ひのうねりみも今あら田の里とて移りし 百菴

世法よこさい成りのちをいふもいを枕かりにあひもあるの里 明所

○三月廿五日より湯宮乙由宮本社建立成就し月閑焼 ○三月目白新長

谷寺境内親世寺閑焼 ○浅草唯念寺林念寺福地澄泉寺し七日

下野高田天拜てんぱい一光いっくわう之の佛ぶつ并焼 ○四月朔日より田向院園山護念仏傳中

千辨佛せんべん 他 阿彌陀如来境内茶ちや茶ちや赤あか才さい天てん一言親世寺閑焼 ○同日より青山

善光寺一光三尊いっくわうさんそん院閑焼 ○浅谷長谷寺二丈六尺親世寺いっくわう後ご勢せうの像を

外古佛靈宝閑焼 ○四月より下谷寺町蓮城寺祖師 日親上人 閑焼 ○橋場

不動院不動尊ふどうそん 他 閑焼 ○四月八日より飛戸社内花園明神閑焼 ○中野法

仙せん寺じ不動尊ふどうそん閑焼 ○芝金杖正傳しんぜん寺あり牛込寺町久成寺くわじ祖師閑焼

○下谷五条天神天満宮閑焼 ○豊岩山田福寺あり出羽湯殿山あいの芝金堂しんごんどう玄良

坊ぼう依い久く間ま新しん日にち如にょ來らい閑焼 ○魏町平河又林内うゑ寺じ小こ淨じやう淡たん高たか明めい林りん虛こ空くう苑

弁孫悋 ○六月より本以丸山身若寺祖師開帳 ○六月十日儒師痛垣在草平 号曰
林茂左衛門白山 夏より伊豆大島焼始り南海へ火焼出る不川沖を夜へ火光天く
妙法寺小善以

映するせり ○八月十五日日向院より以取粟津義仲も本若義仲が守本
あつむ 寺の日経院如來芭蕉翁像開帳 ○八月廿五日書家言山小湊平 名尚賢持平時
あつむ 法家持平

○秋魚鱒ありねが小田東の海中へ大魚来るより又以取平横八九万容中へ跡
あつむ の類分を名せしウガサノとりありある大船をも覆つてとりて以漁人
たれく海へ出るあり ○十月月本不動寺内を以武島多摩郡谷保天

社開帳 別考 ○十月甲辰身延山七面宮より出火系諸の者怪家人をく
安樂寺 江戸よりも智を以迎ふ出る者多く九死一生の祥もて以府せし由りて

安永七年戊戌 七月間

二月朔日より濃雲奉法ありく依渡山塚系根本寺祖師開帳 ○二月十二日

俄に大風起り本石町より出火靈巖高深川延延焼 ○小幡町子代回

縮為若麻靈宝殿ありて斜せむ ○浅野家の義士堀形安三清が後
縁組とのひし計りの時せり 家 ちゅうりやう 雑糞して妙海と号し 龜戸村の庵室に居
ま切後を十六才の時あり

さうし老後泉岳寺の門前小住して義士の善場を吊ひ居りし今
年二月廿五日九才ふく終れり ○三月三日儒師南宮太湫卒 名岳
牛島弘福 林茂六

○三月廿五日より松町平川天満宮開帳 ○鳥森指松の社春日
牛島弘福 明社 別考 開帳 ○三月上野清水堂親世若本堂造立あり開帳
牛島弘福 映善院

○三田春日明社開帳 ○お横身形の日取昔へ晴天八日成り今年三月廿八
日より深川八幡宮境内においしく身形ありしより十日と成り由我衣

名をより ○四月朔日より牛込田福寺より系本満寺祖師開帳

○四月より護国寺より甲辰大聖院不動寺 新羅三弁像 開帳
武田信玄像

○六月朔日、河越前八幡宮之、後及富士裾野、我八幡宮、我兄弟の
像荒人神 玉波明神荒人神 開帳○同日より河越前中央寺大日如來開帳

○同日より同七月十七日、追回白院より信明善光寺跡院、如來開帳武時開帳

○六月十六日、小栗百万平西平郡中 光智法印像開扉○高輝如來より

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月朔日より、河越前南於大佛、勅進新出世大慈天開帳

○六月十六日、武島十条村善光寺正親世善光智法印像開扉○高輝如來より

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

○六月廿二日より、多田兼師、門下

武江年表卷之六

十一

少くは旅所は本地親世寺開帳 ○川崎年間寺厄除弘法大師奉
堂修復成就不肖同帳 ○

上土山聖天宮西の藤小糸の池あり池中小石投げ等
と号し大正未年の老嫗の立像あり兒童石を投じ
小投返りといひ傳へり一年六尺小罷り池も埋れ石像由土中不埋れ四十年未初る人々
今年のも下孫八日市田の百姓年山忠左衛門といひの江戸不考り以所を借りて酒樓
と營み池を堀改め二条不考り築しと三橋亭と号し又藤の女小機之織りて客
小つ存けりといひこの時の石像を堀りて之を移りて山と不考りて今在
て上集家婆の傍あり ○四月朔日二日大寒一日大雪降 ○四月八日より

濱草本法寺より新曾妙顯寺祖師釈迦如來開帳 ○月日より回向院
より伊勢朝熊岳金剛院より虚空苑菩薩開帳 ○押上最教寺蒙
古還活の龍曼荼羅を拜せむ ○下谷住大寺摩利支天開帳

○四月八日より濱草樺寺 二光 結言熊野本地弘法如來 開山親智國師 撰撰年考 開帳
○四月より七月迄百日のちわ洲江の傍本宮岩屋寺より天開帳弘法系諸位
○同夏不動寺内より信及水内郡石堂村萱堂寂照房作地持 別考 開帳 田光

○龜岩山内より濱乃山虚空苑并年中後鬼林堂地持并開帳 別考 延命寺

○五月十日より廿九日と古船越前勸進寺之南於東寺二日堂親世寺并開帳

○六月八日より茅協町某師内之武洲下新屋村某師寺吹上親世寺開帳

○湯島を林社地より多摩郡谷古田領新里德性寺某師如來不動寺并

帳 ○八月より深川八幡宮本地愛深明王開帳 ○小石川寺量院小野

の小町の墓とを五和洲より移しり由へ今年小町の九百を忌み當り八月八日

法を修め 小町の修め三月 某の日ありり ○八月廿二日大風雨洪水和泉橋落月白下水

道橋極の岩せり程 小日向水乃丁辺 住来水更程 ○薩初彦品川の前邸 琉球寺の

筆を起て植ふる者人々を珍賞す 世小並小 筆と格次 ○九月二日俳人梅野菴五建平

五年云小石川 一多事 ○九月より十二月迄小畑町より甚左衛門町へ移りて 此の地

壊ち此の地を埋め 此の地 ○九月十五日牛河前多礼林寺を後一孝子

町より出た物と出たもの後中絶也○去年冬より俣豆大
焼出夜毎西南吹動して江戸連も荒波なり○十月朔日夜より
二月迄灰雪の如く降る大隅國様高燒より一か所灰江戸連も焼く

り○十月廿二日能人笠家た兼卒 卒年五十一の山下
修運ち兼事 ○葛西柴又村新修

九世日 今年堂宇を修理せし不本堂の棟上より今の帝釈天の板本
致の時 多せぬくこれをまうる 是箇もあつて老の共ひし本堂との日兼申ふ事
しこれより庚申の日と縁日として諸人喜ぶ

○今年 是日
ふ祥 書家烏石葛原家初ふ於て卒 八十六字君岳号白雲社
廣傳の門人なり

○十二月十八日平賀旭溪卒 在国倫林深内号風来山人楊梅松泉も小尊
一去ふ安永九子年三月とも云

安永九年庚子

正月八日書家後山叔兼卒 名秀盈後山流の祖
下谷長福も小尊 ○二月十五日書家山本昌

信卒 孫菊治三田
孫も小尊 ○三月乃基井千七十年供養六阿弥院如來不持不持

日向○二月朔日より湯島社地より上野世良田感徳山熱持と十一面

親世寺園帳○麻布谷福も冠儀聖徳太子園帳親書上人孝八字居

号を詳せむ○千石谷八幡宮祐功皇后喜日明神園帳○三月朔日

市谷柳町光徳院子も親世寺園帳○同日より池の妙寺も祖師園帳

○三月十日より青山善光寺も攝津難波堀江一光寺佛園帳 和老も

○三月十六日永代寺も葛飾郡吉川延命寺地蔵寺園帳○四月朔日より

日向院より同系祐寺も阿弥院如來祐天寺信正寺新園帳○四月朔日浅

谷西福も重量寺仏 徳什祐
親世寺 園帳○四月朔日より極楽水光寺も元木某師

園帳○四月十五日より飛田村祥雲も聖親世寺井深川寺町も慈寺も

園帳○日向不動寺園帳○浅草天主堂西の橋始り撰る○四月十六日より

羅漢も三市堂建之八月の以成就 後又坂東
西國の字 百親世寺安徳供養あり 名徳某師
長

○四月房州南浦異國船漂着南条船名廿八号七十八人等といふ

○五月高田室倉より石を積り富士山を築き今月成終す ○或書云六月

○六月廿四日儒師松宮親山卒 名後仍稱之為松宮親山院

○六月廿四日儒師松宮親山卒 名後仍稱之為松宮親山院

○七月朔日より田白

院を丹後天橋立成ねり聖親世を對王丸代北苑等因縁 ○九月十

五日儒師林東溟卒 名後仍稱之為林東溟院

○十月十日山岡阿右衛門系於小卒 名後仍稱之為山岡阿右衛門院

○武藏志料字彙成 武藏志料字彙成 武藏志料字彙成

此年間に事

堀の内妙法寺祖師進日奈指人群集以 ○安永始の以王子駒込谷中辺西玉

写經を言れ不巡り定む ○江戸小二十五番新田光大師巡拜祈を定む

目録左小畧記之 ▲菓子屋 下谷妻小路合以本町鈴木越後月多同本町中一や

餅 ▲輕焼 下谷車坂 ▲蕎麥切 浅草乃好庵櫻町福山牛島茶屋

▲船切 浅草大坂や芝日妻日野 ▲揚枝茶屋五倍子酒中花 浅草境内

▲生魚賣 浅草西木一軒 ▲藪の焼 浅草助敷 ▲隅田川諸白 浅草

▲所新おに 浅草 ▲蕎麥切豆腐 浅草 ▲あけ雪あ茶 浅草

▲黄飯 浅草 ▲浅草餅 浅草

東く花名の名不約の名所をも記せり ○相模取谷風櫃之助小野川喜

三邦親近藏雲古歩の歩行 安永の以ては源川永代 ○狂哥師 平秋東他

蜀山人多柄園持唐衣搦洲 ○軍談師馬谷 落石井魯石行

○浮世繪師香居清長 新を柄珍木真作の以より以骨み巧み成 吉丸堂真淵

志川真所 余徳 哥川豊春 一庵 ○能人如露菴香醉四時遊觀録

とつゝ面搦せり 後奥山三途川流像初秋の若多 ○浅草寺境内石地蔵尊

因果地蔵 流形 後奥山三途川流像初秋の若多 ○共先稻荷境内茶

店の婆々油搦を拵くおいてくと喰ふ時靴出て合ふ皆人見と見る ○婦女の

髪さし始る ○名入温石始る ○裸人形腰折れといふりの造り始む

再按る
小惣云
文政四
年十月
終れり
小石川
慈照院
小藤氏

○小石川信通流大志を中り却りなる以門前の表町前小辰已盛惣を請といふりの田楽茶屋の
店を出てつゞくるこの惣を請生質強記をせぬ弱きを助成願る快幸の有りたる若年よ
里津出中りの惣をせしむ化通と名し山王神田の分是の惣礼もも出て踊る或は女のかりとせり
あり小系女とあり巫女の惣をせしむ或は惣度藩中の惣の多小強てられりこと金箱ハ
ありの惣をせしむ文化の半の以神田お礼の時千体才あり出りの上小をりて踊りておのれも皆
ありは七十金ありと終り 南畝先生文化元甲子秋名場趣り時高船の清人程赤城にお

の里がわの存已盛の病と風を二小割り如く面島結ゆり一とくられとぞ存已盛が
禹像小南畝先生の醫あり おまつりと神樂の半は存已盛られ本娘の花さきせ前

○安永中鳥山檢校遊里小趣遊女深川を身交し巨万の金銀を費せり

此檢校法小金箱を貸してる利と金あり ○山王神田お礼の時花万度とらりさし出る

けるおまつひ小衆料小ませりれとせり ○安永中越後の産まて女世といひ

るは成止りれ一は地車を添へて曳万度と号し ○大女のカサハとせし物おあせり

天明元年辛丑 四月十三日改元 五月圓

正月八日新校本町和國録の存より出火あり芝居その外に鏡雲嚴密小

いり ○二月朔日より浅草始まるおと縁念名越谷長勝と祖師一長徳

○二月初日淨瑠璃語元祖常磐津文字太夫死 廣尾 ○二月十五日

より回向危りて小徳小金 善化宗 一月寺親近如來不動尊開帳 又八箇三策

ある神 ○三月十日十三日と多田中一内より 信州善光寺回向如來漸常文内

拜 ○三月十八日浅草三社権現祭礼一と終り今年神樂系お産子の

町々山出係物を出せ中絶 ○四月八日より回向院より山嶽嵯峨二宮院跡地秋述
 系光大師開帳 ○淡室本法寺より下総國平賀寺祖師開帳 ○茅場町
 某師内より和及之峯天の河奈才天開帳 ○古川某師如來極士修院 開帳
 ○數ヶ橋宗係より甲斐國郡内小沢之村西方より十一面觀世音開帳
 ○目白不動寺境内にて武藏惣社住吉和房三社開帳鎌倉大宮司
 ○六月五日淡室寺六天系礼拝遷出練物抄 ○六月十四日儒師井上某
 條年名遠林形古事 ○六月十八日四谷天主稻荷系礼拝遷出練物抄
 抄 ○秋雲系洪水江戸橋換次 ○七月初日より回向院より奥州外濱百津
 寺岩中山三社本塔跡地如來觀世音并某師如來開帳 ○同日より淡室寺
 泉寺より武及八王子本寺より祖師開帳 ○四谷寺南寺町寺成院塩踏觀
 世音開帳 ○東叡山護國院常念佛堂五日回向 ○下谷徳大寺より中

山法花經寺祖師開帳 ○七月初日湯島社地より小野社境内安堂天
 満宮開帳 ○八月より淡室寺荒沢不動寺開帳 ○九月晦日子刻吉原伏
 見町一本の寺下より出火一所の除焼る此交へ修築あり ○十月十三日蓮
 上人五百年忌法花宗寺院法堂を設く ○十月十日目黒長泉院開
 基徳門律師寂講普寂号名光 ○十月廿日より十一月廿日迄淡室寺觀世音
 開帳 ○隅田川兩岸一覽二巻板折成軸物を刊行するもの多敷少一窪岡菴水の事
 下谷金枝小僧若妻を保ちて ○あつたはら徳林社境内の中道老庵にて若妻を觀望するが如く
 文政の末より尚存在なりとす ○實して日々羣集しさまかき貨食舖の如くして本寺を信ぜられたり
 天明二年壬寅
 三月十日より永代より永代より八幡宮本堂遷移の五穀新以敬告觀世音
 開帳以所境内より巫女のおすとことり ○三月七日二井觀和八十二才男菴湖縁縁
 源川寺丁増林寺 ○三月十日より淡室寺念佛堂より足邊谷級華嚴寺十一面觀世音

開帳 ○同日より回向院より奥州金花山参り天開帳 ○芝金取付傳書中中山

智泉院鬼子母神開帳 ○某坊町某師内より小津陸高町神宮開帳 ○三月廿二日

金形工尾務直政卒 林縁左衛門 ○三月廿九日儒師片山兼山卒 名世瑞林冬彦

○四月三日儒師後藤芝山卒 六十才孫跡彦清 ○五月四日細井九臯卒 名和文

○六月三日戲作者伊能可冬卒 比谷理世也 ○六月天文

○七月朔日より回向院

○七月十四日夜九時十音如大地震然人戶外出るる男女の地震ハ算(かじ)

○七月十五日より下谷山法院内より

上及敏林光昭卒 延喜四年利根川より 河孫院如某開帳 ○十月廿日俳人三坊存

義卒 号明也為後也 ○十月廿九日俳人谷口樓川卒 卒於中 ○今年ハ獲ふ

天明三年癸卯

正月廿六日涼翁の程方師芙蓉花江戸小卒 平の登傳云傳と云 ○二月二日俳人

二世清涼卒 八十五才湯上中 ○二月二日大地震 ○二月より吉妻森吉妻權

現開帳 ○二月廿日より龜戸門院正親世者開帳

○二月廿八日俳人臯月平砂卒 三田為林也 ○三月十四日より下谷山法

院稻荷茶本北十二面親世者開帳 ○月十五日より淺草松松が齒吹孫院

如某開帳 ○三月十五日より回向院より鎌倉永谷貞昌院又清宮法性

坊本地觀世音開帳 ○青山善光と弥陀如某開帳 ○淺草觀世音開

帳 寛延四年より三年目之北中冥佛より孫開帳 ○同日より約形堂より下徳正

本堂仁王門被損修復あり

